広島大学大学院教育学研究科音楽文化教育学研究紀要 XVI 2004. 3. 25

中学校音楽科における歌唱・合唱活動の在り方に関する一考察

――中学生を対象とした、歌唱活動に対する意識に関する質問紙調査を通して――

立 石 裕 子

(本講座大学院博士課程前期在学)

Ⅰ. はじめに

歌唱・合唱活動は、現在の音楽科の授業における表現領域の重要な活動の1つである。筆者は、歌唱・合唱活動が音楽科の授業の大部分を占めている理由として、以下の3つのような特質があるためと考える。まず第1に、歌唱・合唱活動は自分の声を使い、いつでもどこでも簡単にできる音楽の表現方法であるため、生徒が日常生活に還元しやすいという点である。すなわち、生徒は音楽の授業による歌唱・合唱活動で学習した経験を、個人の生活の中でも気軽に楽しむことができるのである。したがって、歌唱・合唱活動を充実させることは、現行の学習指導要領の各学年の目標である「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味・関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を育てる」ことに貢献し得ることを示唆しているといえるだろう。第2は、生徒の情緒面に深く作用しやすいという点である。歌唱・合唱の楽曲には、音楽を構成する要素として歌詞という、生徒が自らの生活で使用している言葉が用いられている。そのため、生徒は歌詞を通して、その音楽のもつ曲想やイメージを直感的につかむことができると考えられる。つまり、歌唱・合唱の楽曲は歌詞という要素を通して、器楽曲以上に生徒の情緒面に働きかけ得るといえよう。第3は、集団形成の促進を図ることに有効であるという点である。歌唱・合唱は、楽器の演奏とは異なり、フィンガリングやタンギングなどの特別なスキルの習得を必要とせずとも、皆が同時に行える音楽活動である。その際に、生徒は仲間と呼吸をそろえ、声を合わせて歌うことで充実した気持ちになり、仲間との一体感を得ることができるのである[1)]。そのため、全校集会での校歌斉唱や、卒業式や入学式での全校合唱といったように、しばしば集団形成の促進を図る目的から、学校行事に取り入れられる機会も多いのである。

しかし、学年が進むごとに声を出さなくなる生徒が増加する、また、クラス単位での歌唱・合唱活動から全校での歌唱・合唱活動へと人数が多くなるにつれ、ますますその傾向が強くなるといった実態が、音楽教育関係の雑誌においてしばしば取り上げられている[2)]。このように歌わない生徒にとって、歌唱は音楽科の授業における自己表現の手段になっていない。また音という素材を扱う音楽教育において、生徒が声を出さないといった状況は致命的であり、授業の成立が難しくなる。このように、中学校音楽科の授業での歌唱・合唱活動において、声を出さない生徒が存在することは大きな課題の1つとなっている。

生徒が歌える授業づくりのために、教師はなぜ生徒は声を出さないかといった原因の把握を行い、それに応じた授業を構築していくことが望まれる。本研究では、学習者である中学生を対象とした歌唱・合唱活動に対する意識や実態に関する質問紙調査を行い、音楽科授業における歌唱・合唱活動の実態を明らか

にする。そして、その結果から生徒が声を出さない原因を考察することを目的とする。

Ⅱ. 調査の目的

本調査の目的は以下の通りである。

①学習者である生徒を対象とした歌唱活動に関する質問紙を作成し、調査を行うこと。

②授業での歌唱・合唱活動に対する意識や活動中の態度など、歌唱・合唱活動における生徒の実態を明らかにすること。

③その結果から、音楽科の授業において生徒が歌わない原因を考察すること。

Ⅲ. 調査の方法

1. 調査の方法および手続き

本論の質問紙調査は、A市の中学校3校を対象として2001年10月から12月にかけて行った。各学校の第1学年から第3学年を対象とし、合計1031人（うち男子生徒504人、女子生徒527人）からの回答が得られ、有効回答率は85%であった。

2. 質問紙（文末に掲載）

質問紙作成にあたっては、1996-2000年に出版された教育雑誌『教育音楽　中学/高校版』のうち歌唱・合唱に関する「特集」および、質問紙調査の実施校の音楽科教師に対して行ったインタビュー調査を参考にし、生徒の歌わない原因を絞り込んだ。そして、それをもとに生徒の歌唱活動における意識や実態に関する項目を重点的に盛り込んだ内容の質問紙を作成した。また、対象が中学生であることや実施する学校の負担などが回答率に影響する可能性を考慮し、回答の形式は「はい・いいえ」のどちらかを選択する2択式を中心として構成した。さらに、作成の際には実施する学校の教師に協力いただき、アンケートの内容や表現の検討を行った。質問紙は、以下の6部で構成されている。

問1：学年・クラス・性別・習いごとなどの生徒の個人的な情報に関する質問項目

問2：学校教育以外での音楽活動の状況に関する質問項目

問3：音楽科授業に対する意識に関する質問項目

問4：歌唱・合唱活動に対する意識や態度に関する質問項目

問5：パート練習に対する意識や態度に関する質問項目

問6：歌唱・合唱活動の意義と声を出さない原因に関する質問項目

Ⅳ. 結果及び考察

1. 生徒の学校教育以外での音楽活動の状況や実態

(1) 学校教育以外での音楽活動の実態

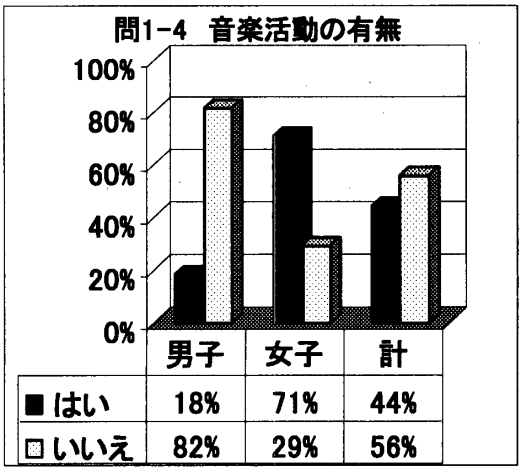


図1 音楽活動の有無

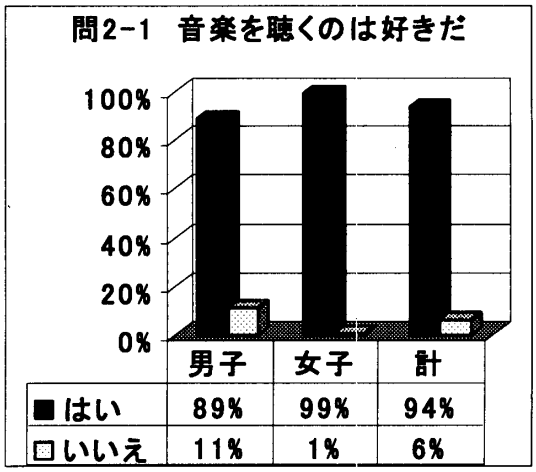


図2 音楽を聴くのは好き

中学校入学以前にピアノなどの習いごとやサークル活動に所属していたなどの音楽経験があると答えた男子は18%と少ないのに対し、女子は71%とかなり多い結果となった（問1-4、図1）。このことから、女子生徒の多くは音楽科以外でも音楽活動を行う機会を得ていたのに対し、ほとんどの男子生徒はそのような機会がほとんどなく、学校での音楽科教育が唯一の音楽活動の場であるといえる。しかし、歌や音楽を聴くのが好きであると回答した生徒は、男子・女子ともに多い（問2-1、図2）ことから、多くの生徒は日常生活の中でも音楽や歌を好んで聴いており、音楽や歌に対して興味や関心をもっているといえよう。

(2) 学校教育以外における歌う行為に関する実態

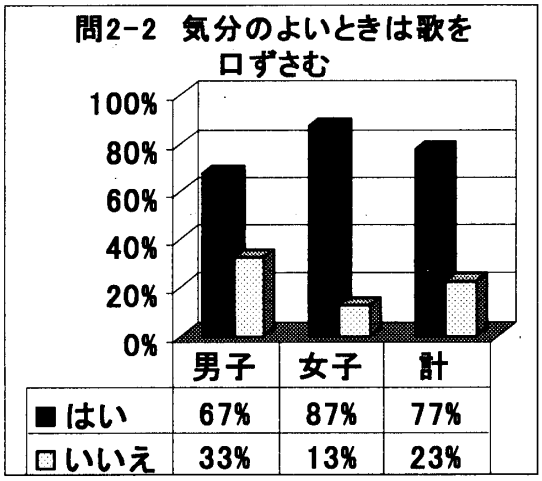


図3 気分のよいときは歌を口ずさむ

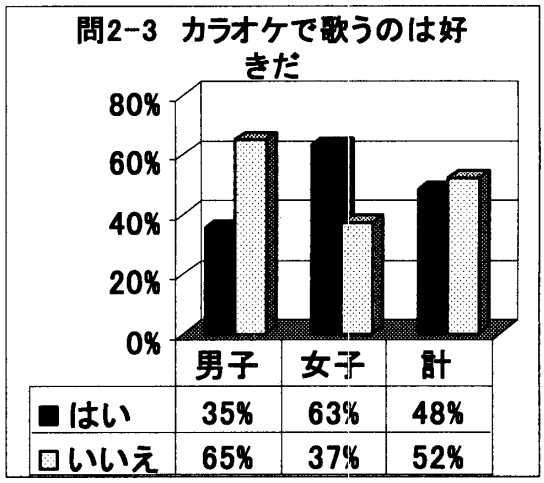


図4 カラオケで歌うのは好きだ

歌を口ずさむ、カラオケで歌うといった学校教育以外で行う歌唱活動に関する質問項目の結果から（問2-2、3、図3、4）、多くの生徒は日常生活において個人レベルで歌うことを楽しんではいるが、人前で歌う機会はほとんどないことが明らかになった。

だが一方で、歌がうまくなりたいという願望をもっている生徒は、男子は61%、女子においては92%

もおり（問2-4、図5）、歌うことに対しての関心はもともともっているといえる。

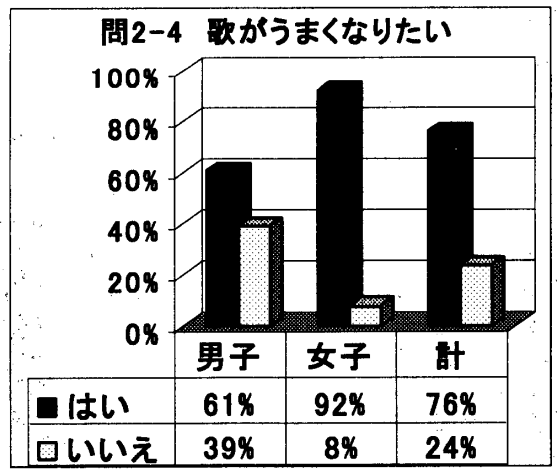


図5　歌がうまくなりたい

また、問1～2の「学校教育以外での音楽活動の状況や実態に関する質問項目」の集計結果を見ると、どの項目においても「はい」の回答率は、女子生徒の方が男子生徒よりも10～30%近くも多いことがわかる。この背景として、第2次性徴期における身体的変化や精神面での自我の発達に伴い、男子生徒と女子生徒で価値観や考え方が微妙に異なってくることが考えられる。またこの他に、問1-4で述べた男女で音楽経験者数に差が生じていたことも影響していると考えられる。

2. 音楽科授業に対する意識に関する質問項目

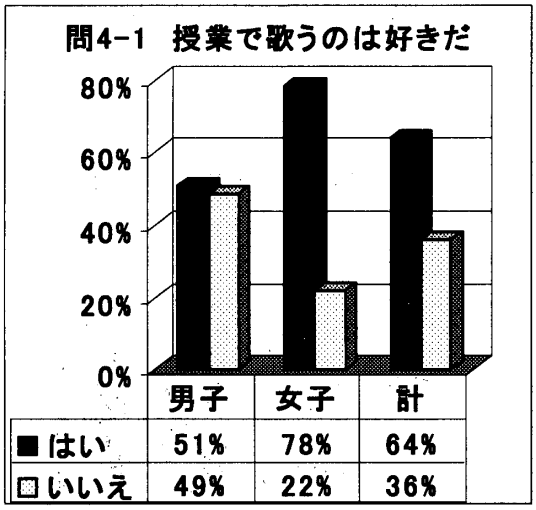


図6　音楽の授業は好きだ

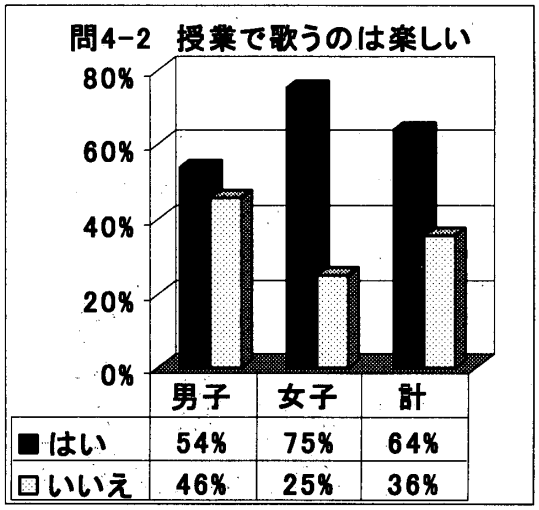


図7　音楽の授業は楽しい

問3-1、2（図6、7）の結果から、音楽科の授業に対して、過半数の生徒がよい印象をもっているようである。

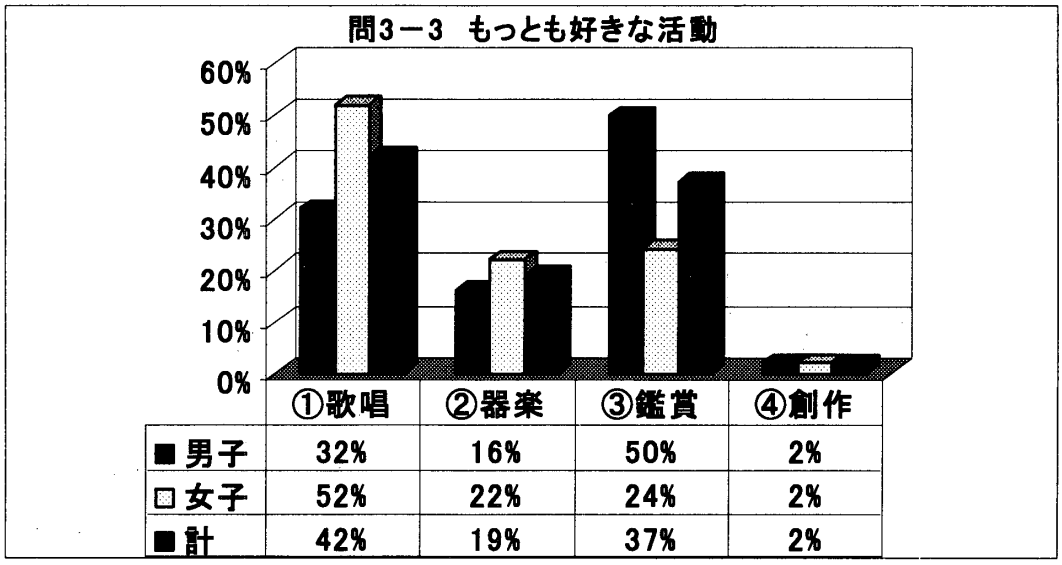


図8　音楽の授業でもっとも好きな活動

音楽科授業の活動において生徒がもっとも好きな活動は、歌唱活動（42%）、2番目に多かったのは鑑賞活動（37%）、3番目は器楽活動（19%）、4番目が創作活動（2%）であった（問3-3、図8）。性別ごとに検討してみると、男子生徒の回答で最も多かったのは鑑賞活動（50%）、2番目は歌唱活動（32%）であった。それに対し、女子生徒の回答で多かったのは歌唱活動（52%）、2番目は鑑賞活動（24%）と逆の結果になった。このような結果が生じた背景として、問1～2で明らかになったように、男子生徒は音楽的な習いごとなどの経験がほとんどないために、日常的に音楽を聴く・口ずさむなどの個人レベルでの音楽行為を行ってはいるものの、人前での表現活動の機会が少ないことが挙げられる。したがって音楽の授業においても表現活動よりも鑑賞活動を好む男子生徒が多い傾向にあると考えられる。

3. 歌唱・合唱活動に対する意識や態度に関する質問項目

(1) 音楽科授業での歌唱活動に対する意識の実態

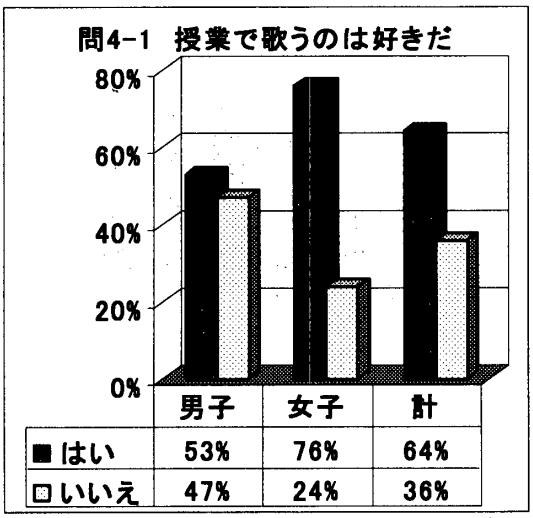


図9　授業で歌うのは好きだ

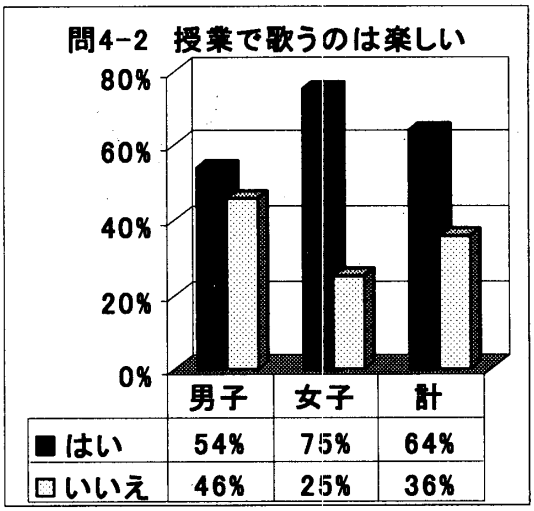


図10　授業で歌うのは楽しい

これらの音楽科授業での歌唱活動に対する意識に関する質問項目（問4-1・2、図9・10）の集計結果から、歌唱活動に対してよい印象を抱いている生徒は比較的多いと考えられる。また、ここでも男子と女子の間でその結果に差が生じている。

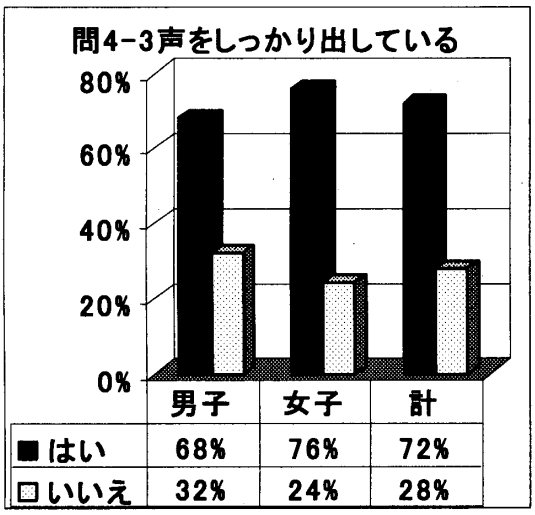


図11　声をしっかり出している

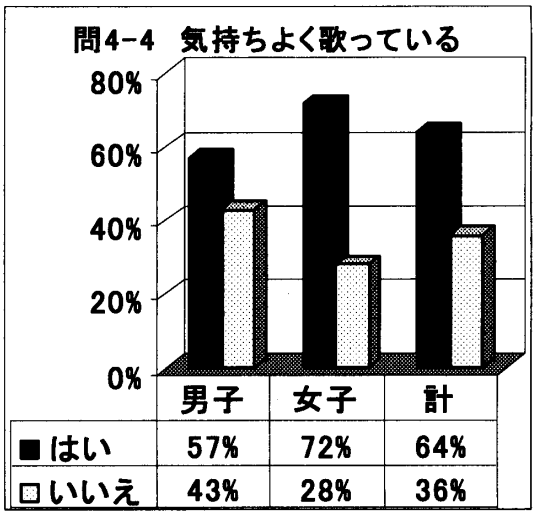


図12　気持ちよく歌っている

また、歌唱活動に対する姿勢や実態に関する質問項目（問4-3、図11）の結果から、実際に授業でしっかり声を出して歌っている生徒は全体では7割を越えており、音楽科の授業において歌っている生徒は多いといえる。しかし、一方で「問4-4　気持ちよく歌うことができる」と答えた生徒は64%と減少していること（図12）から、授業中において、生徒は歌っている際に何らかの問題や課題を感じ、それによって気持ちよく歌うことができない状況になっていると考えられる。

(2) 音楽科授業での歌唱・合唱活動に関わる生徒の音楽的な能力の実態

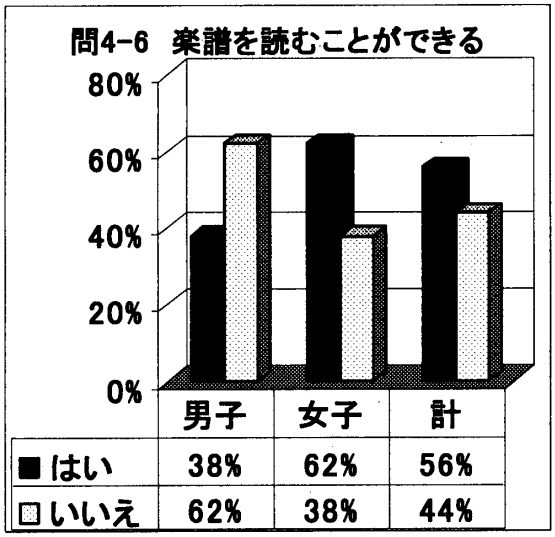


図13　楽譜を読むことができる

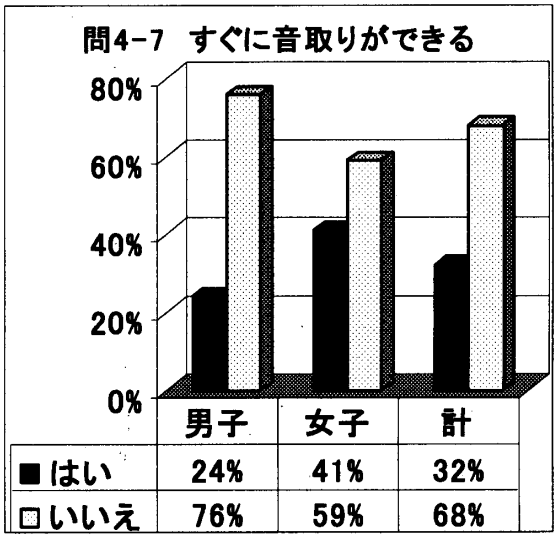


図14　すぐに音をとることができる

楽譜を読むことができると答えた生徒は男子が38%、女子が62%（問4-6、図13）であったことから、多くの男子生徒が楽譜を読むことができなかったり、苦手であることがわかる。このことは、問3-3の結

果のように男子生徒が表現活動よりも鑑賞活動を好む傾向の理由の1つであるといえよう。また音取りに関しては、自分のパートをすぐに歌うことができると答えた生徒は、男子生徒は24%、女子生徒は41%とともに50%に達していない（問4-7、図14）。

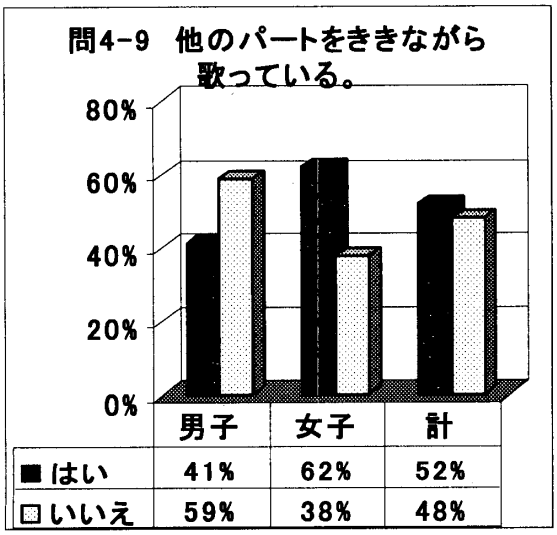


図15 他のパートをききながら歌っている

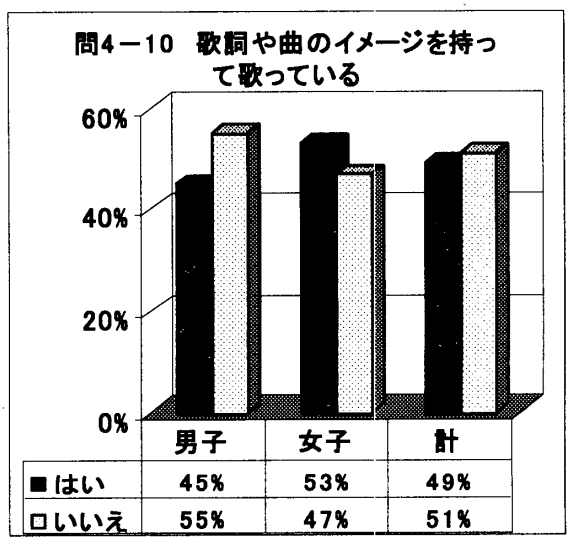


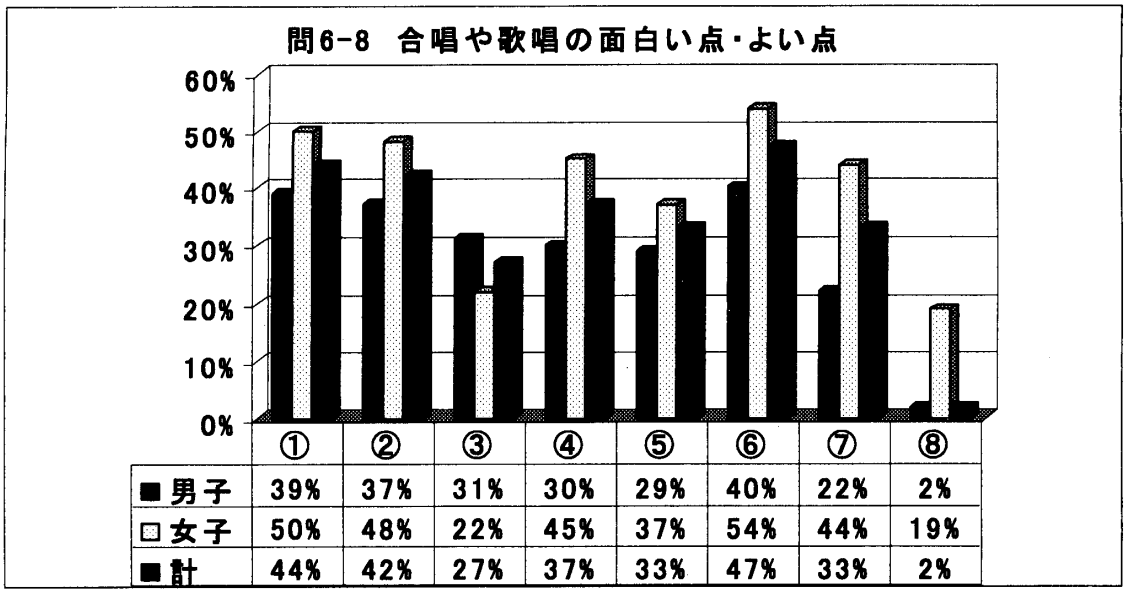
図16 歌詞や曲のイメージを持って歌っている

他パートを聴くということはハーモニーをつくる際に必要であるが、他パートを聴きながら歌っている生徒は52%（問4-9、図15）、また歌唱活動において生徒の自己表現と深く結びつくと考えられる曲や歌詞のイメージを持っている生徒は49%（問4-10、図16）とともにほぼ半数にとどまっている。この背景として、問4-6、7、8の音楽的な予備知識や能力が関係していると考えられる。先述の問4-7で得られた中学生の多くは音取りが苦手な生徒であるという結果から、自分のパートの音を歌うことに精一杯で他パートを聴けていない、もしくは他パートを聴くことで音が取りづらいといった課題を抱えた生徒がいると思われる。また、同様に音取りに時間がかかる、正しい音で歌えないといった技術的な面で問題がある生徒が、詞や曲の内容を深めたり、イメージしたりすることができない状況になってしまうことが考えられる。この他に教授行為の面においても、授業時数に限りがあるのにもかかわらず音取りに時間がかかってしまうという現状がある。そのため、限られた時間で曲を仕上げる場合には、指導の効果も表れやすいハーモニーや強弱などの技術的な表現の指導が中心となってしまい、これらの歌詞の内容について生徒が深める時間があまり取られていないのが現状なのではないかと考えられる。

5. 歌唱・合唱活動の意義と声を出さない原因

(1) 生徒が感じる合唱・歌唱活動の楽しさや魅力

「問6-8　あなたが合唱や歌が面白い点、またはよいと思う点は何ですか（複数回答）」の結果（図16）でもっとも多かったのは「⑥いろいろな歌に出会えること」（47%）であったことから、生徒の曲に関する興味や意欲は高いことがわかる。



①歌がうまくなれること　②皆で1つのものを作り上げること　③歌詞や曲からイメージして歌うこと
④歌うと楽しい気持ちになれること　⑤声を出すとすっきりすること　⑥いろいろな歌に出会えること
⑦自分のパートとほかのパートの声を重なり合い　⑧その他

図17　歌唱・合唱の面白い点、よい点

しかし一方で、授業で歌う教材となる曲に関しては好きな曲が多いと答えた生徒は39%という結果になった（問6-2、図18）。

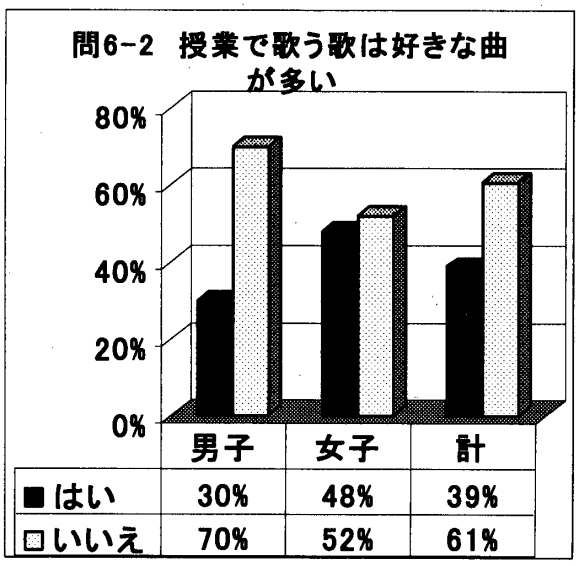


図18　授業で歌う歌は好きな曲が多い

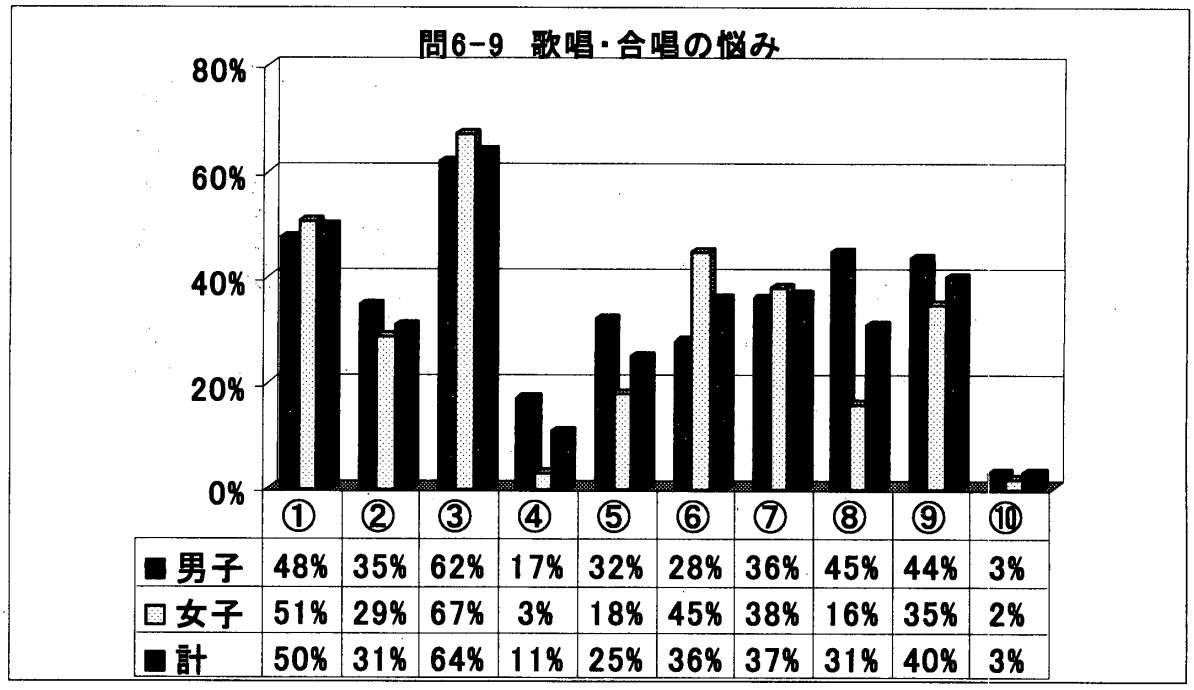
また、問6-4（図17）で2番目に多かった項目は「①うまくなれること」（44%）であることや「問2-4歌がうまくなりたい（図5）」という質問項目の結果から、生徒はもともと歌うことへの興味や関心を持っており、歌がうまくなりたいと思っているといえよう。

3番目に多かった「②皆で1つのものを作り上げること」（42%）であることや上述の「問6-1クラスの皆で歌うには楽しい」と答えた生徒が73%と比較的高いことからも、歌唱活動の中で仲間とともに歌うこ

とに喜びを感じている生徒が多い。このことから歌唱授業において仲間との共同作業や信頼関係は、生徒にとっての喜びや歌唱活動の意義として大きな影響を与えていると考えられる。

これらの歌唱活動の魅力は、歌わない生徒への意欲付けや動機付けに関わることである。したがってこれらを効果的に授業で生かしていけるように提示方法の工夫や授業案を検討することは、歌わない生徒が歌える授業づくりにつながっていくであろう。

(2) 歌唱・合唱活動で生じる問題や生徒の悩み



	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩
■男子	48%	35%	62%	17%	32%	28%	36%	45%	44%	3%
□女子	51%	29%	67%	3%	18%	45%	38%	16%	35%	2%
■計	50%	31%	64%	11%	25%	36%	37%	31%	40%	3%

①自信がない　②声を出すことは恥ずかしい　③皆が歌わないと歌いづらい　④歌うことは面白くない
⑤興味のわく曲が少ない　⑥自分の声が嫌い　⑦声が出にくい　⑧楽譜を読むのが苦手だ
⑨音がなかなかとれない　⑩その他

図19　歌唱・合唱に関する悩み

生徒が歌唱・合唱活動に対して感じる問題や悩みは、生徒が声を出さない原因となり得るものである[3)]。質問項目「問6-9　あなたが合唱や歌が嫌だなと思うこと、苦手だなと思うことは何ですか（複数回答）」（図19）において、最も多くの生徒が選んだ項目は「③皆が歌わないと歌いづらい」(64%)、次いで「①自信がない」(50%) であった。また、最も回答が少なかったのは「④歌うことは面白くない」(11%) であったことから、歌うことが嫌いな生徒は基本的に少ないようである。3番目に「はい」の回答が多い選択肢に関しては、男子と女子で歌唱活動の悩みの傾向がはっきり分かれた。男子生徒は「⑧楽譜を読むのが苦手だ」(45%)、「⑨音がなかなか取れない」(44%) と、技術的な問題で悩んでいる生徒が多い。一方、女子生徒は「⑥自分の声が嫌い」(45%)、「⑦声が出にくい」(38%) と声に関する悩みが多かった。

最も多かった③に関しては、男子・女子ともに60%以上であることから、集団による影響力は、歌唱活動中における生徒の心理や意識の面に大きく関係していることを示しているといえる。また、「問6-6 人前で歌うのは恥ずかしい」において「はい」と答えた生徒は61%と多いことからわかるように、基本的

に人前で歌うことに対し羞恥心や抵抗感がある生徒が多いが、それが背景となり集団の中においても、皆が歌わないと不安になったり、恥ずかしいと感じてしまい声を出すのをためらってしまう傾向があると考えられる。また、「問6-7　歌っているとき周りが気になる」において「はい」と答えた生徒は77%と、歌っている際に周りの人を気にする生徒は比較的多い。これは歌唱活動中に他者の行動や他者からの評価などを気にするという思春期特有の傾向がある[4]ことも、集団による影響力が強い要因の1つとなっていると考えられる。

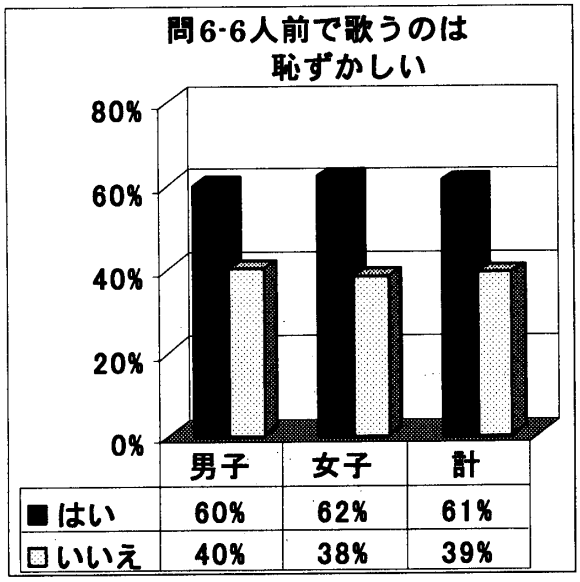


図20　人前で歌うのは恥ずかしい

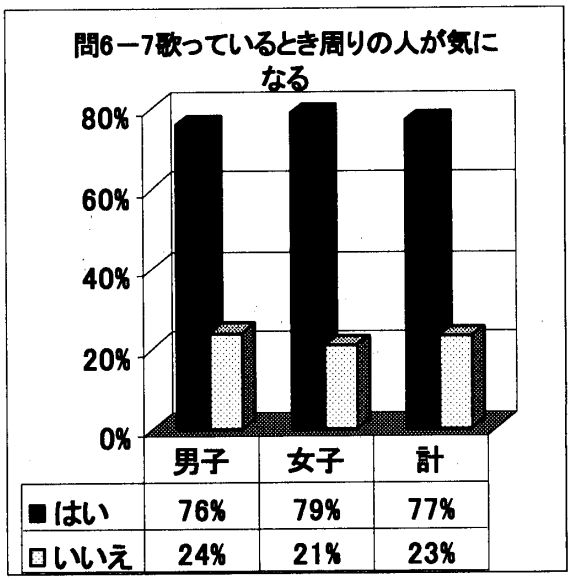


図21　歌っているときに周りの人が気になる

また、2番目に多かった「①自信がない」という状況になる原因としては、自分の声や歌に自信がないことや、正しい音で歌えないことなどが背景となり、歌うことに抵抗を感じる生徒が多いと考えられる。だが一方で、問6-8で述べたように歌唱活動を行うことで歌がうまくなることを期待している生徒が多いことを考慮すると、生徒の心の中にあるうまくなりたいという気持ちを引き出し、不安や自信のなさを取り除いていくためにも、発声指導をどのように行っていくかの検討が行われる必要があるだろう。

V．本調査の反省点及び今後の課題

本調査の反省点や今後の課題を以下に述べる。

本調査では、まず実際の音楽科の授業現場での状況や実態調査を行うことを目的としていたため、質問紙調査の内容や観察の観点が幅広く大まかな設定となってしまい、その結果、各質問項目の相互の関連性を述べるには難しい点があった。また、実施校の実態を考慮し、できるだけ時間的な負担がかからないような質問紙作成を心がけ、2択形式の質問を中心とした。しかしその結果、データ処理法が単純計算で終わってしまい、生徒のより深い意識や態度を明らかにすることが困難であった。したがって、より詳細な生徒の歌わない原因を明らかにするためには、心理学的な先行研究をもとに質問紙の改善を行うことが必要であろう。

Ⅵ. 総括

今回の質問紙調査の結果から、全体的考察を以下にまとめる。

1. 生徒は「歌がうまくなりたい」という欲求をもっており、授業を通して、歌がうまくなることを期待している。
2. 男子生徒と女子生徒を比較すると、女子生徒の方が歌唱・合唱活動に対する参加意欲が高い。この背景として、学校教育以外で音楽的な習いごとの経験をしている生徒が多いこと、それに関連して読譜力や音取りの能力が男子生徒よりも高いことなどがあると考えられる。
3. 生徒が歌わない原因として、集団からの影響がもっとも強いといえる。周りの生徒が声を出さない場合、意欲をもっている生徒も声を出しづらい傾向がある。それには、人前で歌うことに対する生徒の自信のなさが関連していると考えられる。
4. 歌唱・合唱中に感じる悩みとして、男子生徒は主に「音がなかなかとれない」「楽譜が読めない」といった音楽的な悩みを抱えている。一方で女子生徒は「自分の声が嫌い」「声が出づらい」といった声に関する悩みを抱えている。
5. 生徒は歌唱・合唱活動を通して、さまざまな楽曲と出会えることを期待している。
6. 生徒は歌唱・合唱活動を通して、皆で1つの音楽を作り上げることに喜びを感じている。

今回の質問紙調査を通して、生徒が声を出さない最も大きな原因となっているものは、生徒の精神的な問題であることが明らかになった。その背景として、中学生は学校教育以外の場において人前で歌う機会がほとんどないこと、また思春期における特徴としてとして自己意識の高まりとともに他者からの評価に敏感になりやすいことが挙げられる。したがって、これらの生徒自身が抱える精神的な問題が、自分の1部である「声」を媒介として表現する歌唱活動においては顕著に表れてしまうと考えられる。そして、一斉授業で行う音楽科授業における歌唱活動では、生徒は仲間の反応や影響を受けやすいため、皆が歌わないから歌いづらい、うまく歌えなかった時に他者から自意識を傷つけられるのではないかという不安を感じるために声を出さなくなると考えられる。つまり、生徒が歌わないのは自己防衛としての手段であるといってよいだろう。そして、その個々人の「声を出す意欲の喪失」が集団の雰囲気にマイナスに作用することによって、クラス全体から歌う雰囲気が消失していくという悪循環を生んでいると思われる。

しかし、生徒は基本的に歌が好きであり、うまく歌えるようになりたいという願望をもっている。したがって中学校音楽科授業で歌唱活動を行う際には、いかに生徒の声を出すことへの不安要素を取り除いていき、本来生徒がもっている歌への欲求をどのように引き出していくかが課題となってくるといえるのである。

今回の質問紙調査から有効があると考えられる具体的な指導方略として、以下に示す。

①集団への影響を克服する方略

・生徒の不安や意欲を引き出すための発声の指導とその研究を行う。

・生徒同士の信頼関係作りを図ったグループ活動やパート練習を導入する。

②生徒の興味や意欲を促進させる方略

・生徒が興味や関心をもてる曲の傾向を把握し、そうした教材選択および教材研究を行う。

・発表の場を設け、生徒の歌唱活動への意欲を高めたり、他のクラスや学年の演奏を聴くことが新しい刺激となるように図る。

しかし、本論ではこれらの有効性についての検討を行えていない。今後、これらの指導方略の有効性について、先行研究を概観するとともに検討していくことを課題としていきたい。

註

1) 以下の文献を参照。

・竹下英二「音楽集団の形成－合わせることの意義」『音楽教育入門―基本理念の構築―』音楽之友社、1995、p. 43.

2) これらの問題は以下の文献であげられている。

・『教育音楽　中学校 / 高校版　第35巻第8号』音楽之友社、1991、pp. 68-73.

・『教育音楽　中学校 / 高校版　第35巻第10号』音楽之友社、1991、pp. 37、45-52.

・『教育音楽　中学校 / 高校版　第37巻第5号』音楽之友社、1993、p. 38.

3) 以下の資料を参照。

・『教育音楽　中学 / 高校版　第40巻第5号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第40巻第6号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第40巻第8号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第40巻第10号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第41巻第8号』東京：音楽之友社、1997.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第41巻第10号』東京：音楽之友社、1997.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第42巻第6号』東京：音楽之友社、1998.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第42巻第9号』東京：音楽之友社、1998.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第43巻第5号』東京：音楽之友社、1999.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第43巻第6号』東京：音楽之友社、1999.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第43巻第7号』東京：音楽之友社、1999.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第44巻第4号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第44巻第6号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第41巻第9号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　中学 / 高校版　第41巻第10号』東京：音楽之友社、2000.

4) 青年期の特徴については、以下の文献を参考にした。

・松田史子・高橋超編著『生きる力が育つ生徒指導論』京都：北大路書房、1997、pp. 35-38.

・山田俊介「青年期・思春期」『教育相談　重要用語300の基礎知識』東京：明治図書、1999、p. 103.

参考文献

・『教育音楽　中学／高校版　第40巻第5号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学／高校版　第40巻第6号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学／高校版　第40巻第8号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学／高校版　第40巻第10号』東京：音楽之友社、1996.

・『教育音楽　中学／高校版　第41巻第8号』東京：音楽之友社、1997.

・『教育音楽　中学／高校版　第41巻第10号』東京：音楽之友社、1997.

・『教育音楽　中学／高校版　第42巻第6号』東京：音楽之友社、1998.

・『教育音楽　中学／高校版　第42巻第9号』東京：音楽之友社、1998.

・『教育音楽　中学／高校版　第43巻第5号』東京：音楽之友社、1999.

・『教育音楽　中学／高校版　第43巻第6号』東京：音楽之友社、1999.

・『教育音楽　中学／高校版　第43巻第7号』東京：音楽之友社、1999.

・『教育音楽　中学／高校版　第44巻第4号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　中学／高校版　第44巻第6号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　中学／高校版　第41巻第9号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　中学／高校版　第41巻第10号』東京：音楽之友社、2000.

・『教育音楽　小学／中学・高校版別冊　うたごころを育てる合唱』東京：音楽之友社、1991.

・『教育音楽　小学版／中学・高校版別冊　合唱指導上達の１５のポイント』東京：音楽之友社、1993.

・『教育音楽小学版別冊　教えて！先輩　合唱指導』音楽之友社、2000.

・大阪音楽教育の会『歌曲による授業めざして』東京：一ツ橋書房、1977.

・鎌原雅彦ほか『心理学マニュアル　質問紙法』京都：北大路書房、1998.

・鴻上尚史『発声と身体のレッスン』東京：白水社、2002.

・武田雅博『短期間で上達する合唱指導』東京：音楽之友社、1995.

・中澤潤ほか『心理学マニュアル　観察法』京都：北大路書房、1997.

・鑪幹八郎ほか編『教育相談　重要用語300の基礎知識』東京：明治図書、1999.

・中学校音楽科教育実践研究会編『改訂中学校学習指導要領の展開　音楽科編』東京：明治図書、2000.

・松田史子・高橋超編著『生きる力が育つ生徒指導論』京都：北大路書房、1997.

・文部科学省『中学校学習指導要領（平成10年12月）』東京：財務省印刷局、1999.

・文部科学省『中学校学習指導要領（平成10年12月）解説－音楽編－』東京：教育芸術社、1998.

・山本文茂監修『これからの中学校音楽ここがポイント』東京：音楽之友社、2002.

・吉富功修編『音楽科　重要用語300の基礎知識』東京：明治出版、2001.

・吉富功修ほか『音楽教師のための行動分析』京都：北大路書房、1999.

・米山文明『声と歌にもっと自信がつく本』東京：三笠書房、2002.

・渡瀬昌治『新版　教師のための合唱指導と実践』東京：音楽之友社、2001.

音楽の授業における歌唱活動に関するアンケート

問1．あなたの学年・クラス、性別、所属している部活動名、音楽経験を教えてください。

1　学年・クラス（　　年　　組）

2　性別（男・女）

3　部活動（　　部）

4　あなたは中学校以前に音楽関係の習い事やサークル活動をしていたことがありますか？（例：ピアノ、児童合唱団など）　はい・いいえ

問2．あなたの普段の生活でのことについて当てはまるものに○を囲んでください。

1　歌や音楽を聴くのは好きだ　はい・いいえ

2　気分のよいときは歌を口ずさむことがよくある　はい・いいえ

3　カラオケで歌うのは好きだ　はい・いいえ

4　歌がうまくなりたいと思う　はい・いいえ

問3．音楽の授業について当てはまるものに○を囲んでください。

1　音楽の授業は好きだ　はい・いいえ

2　音楽の授業は楽しい　はい・いいえ

3　あなたが音楽の授業で一番好きなことは何ですか？

①歌唱（歌う活動・合唱も含む）　②器楽（リコーダーなど楽器を演奏する）

③鑑賞（CDやビデオで音楽を聴く）　④創作（音楽づくり）

問4．あなたの音楽の授業での歌唱活動（合唱を含む）について当てはまるもの○で囲んでください。

1　授業で歌うのは好きだ　はい・いいえ

2　授業で歌うのは楽しい　はい・いいえ

3　しっかり声を出して歌っている　はい・いいえ

4　気持ちよく歌うことができる　はい・いいえ

5　歌うことに集中している　はい・いいえ

6　楽譜を読むことができる　はい・いいえ

7　自分のパートの音をすぐにとることができる　はい・いいえ

8　正しい音程で歌うことができる　はい・いいえ

9　他のパートを聴きながら歌っている　はい・いいえ

10　曲や歌詞のイメージを持って歌っている　はい・いいえ

問5. パート練習について当てはまるものを○で囲んでください。

1　パート練習は好きだ　はい・いいえ

2　積極的に参加している　はい・いいえ

3　しっかり声を出している　はい・いいえ

4　友達にアドバイスしたり意見をいったりする　はい・いいえ

5　パート練習は大切だと思う　はい・いいえ

問6. 合唱についてあなたが感じることや思うことに当てはまるものを○で囲んでください。

1　クラスの皆で歌うのは楽しい　はい・いいえ

2　授業で歌う曲は好きな曲が多い　はい・いいえ

3　歌うと気分が良くなる　はい・いいえ

4　皆でハーモニーをつくることは楽しい　はい・いいえ

5　自分の声を好きだと思う　はい・いいえ

6　人前で歌うのは恥ずかしい　はい・いいえ

7　歌っている時、周りの人が気になる　はい・いいえ

8　あなたが合唱や歌が面白い点、または良いと思う点は何ですか。当てはまるものに○をしてください。（○はいくつでもよいです）

①歌がうまくなれること　②皆で一つのものを作り上げること

③歌詞や曲からイメージして歌うこと　④歌うと楽しい気持ちになること

⑤声を出すとすっきりすること　⑥いろいろな歌に出会えること

⑦自分のパートと他パートの声の重なり合いを感じること　⑧その他（　　）

9　あなたが合唱や歌が苦手だなと思うこと、または嫌だなと思う点は何ですか。当てはまるものに○をしてください（○はいくつでもよいです）

①自信がない　②声を出すことは恥ずかしい　③皆が歌わないと歌いづらい

④歌うことは面白くない　⑤興味のわく曲が少ない　⑥自分の声が嫌い

⑦声が出にくい　⑧楽譜を読むのが苦手だ　⑨音がなかなか取れない

⑩その他（　　）